

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 0272701079 | | |
| 法人名 | 特定非営利活動法人双松福祉会 | | |
| 事業所名 | グループホームわらび苑 | | |
| 所在地 | 青森県三戸郡階上町大字角柄折字餅栗久保4番地1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成29年6月26日 | 評価結果市町村受理日 | 平成29年9月7日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-------------------|--|--|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 青森県社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 青森県青森市中央3丁目20番30号 | | |
| 訪問調査日 | 平成29年7月18日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|--|
| <p>デイサービスが併設しているため、広いスペースを活用して訪問等が行われ、利用者の楽しみが多い。 また、リフト付きのバスが数台あるため、外出や受診が比較的容易にできる。 苑庭が広いので、散歩等も容易にでき、環境が良い。</p> |
|--|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|--|
| <p>ホームは緑に囲まれた静かな山里に立地し、春には広い敷地内で山菜を採ったり、森林浴を楽しむことができる環境にある。 「笑顔を絶やさず、心かよう会話、四季を楽しむ」の三つの心をモットーに、「地域の方々と共に歩んでゆく」という理念の下、地域のボランティア組織「双松会」を立ち上げ、「自主消防隊」とも連携しながら、防災面での協力体制を整えようと努めている。 また、身体拘束排除宣言を掲げ、利用者の尊厳を守りながら、安全安心な支援を目指しており、3ヶ月毎に職員個々に目標を掲げて、日々のケア場面の充実を図って取り組んでいる。</p> |
|--|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項 目 | | 取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印 | 項 目 | | 取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印 |
|-----|--|--|-----|---|--|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 地域密着型サービスを意識した理念を作成し、職員の意識付けをしている。また、地域の方々とのボランティア活動は、各職員にとって、地域とのつながりの意識付けにつながっている。 | 地域住民によるボランティア組織「双松会」を立ち上げ、地域環境の整備活動や昼食会を通じて、法人事業所への理解を深めていただく活動を続けながら、「地域の方々と共に歩いてゆく」という理念の実現に向け、日々のサービス提供に努めている。ホームでは職員が一丸となり、四季を楽しみながら、笑顔で、心通わせるという「三つの心」を意識した支援に取り組んでいる。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | ボランティア組織を作り、周辺の環境整備や利用者との昼食会等を通じて、交流を図っている。また、地域の小学校からの訪問も、依頼をして行っている。 | 地域環境の整備や避難訓練、運営推進会議を通じて、ボランティア組織や地区住民による自主消防隊との関わりを深めている。また、法人主催の祭り等を通じて、地域住民にホームへの理解を促している他、小・中学校の運動会等に招待されたり、訪問の受け入れ等も行いながら、交流を深めている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | ボランティア組織の活動を通して、認知症の方々の生活を側面から支援していただいている。定期的に法人のたよりを地域に発送している。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | ヒヤリハットの報告や看取りを含めたシビアな問題等を議題として、その都度、適切な助言等をいただき、それを活かしている。 | 利用者と家族の代表、自主消防隊、地域の有識者、役場担当課職員等がメンバーとなり、2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。会議では、日常のケア場面における諸問題をテーマに意見交換を行ったり、行政側から介護保険制度や地域情報の説明を受ける等、メンバーそれぞれの立場や経験を活かした情報交換が行われている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進会議を通じて、議題に関わらず、その都度、アドバイスや助言をいただいている。また、適時、タイムリーな情報を提供していただいている。 | 運営上の諸問題の解決や事務的な手続きを要する際は、町の担当課に相談しながら、その都度、指導や助言を受けている。また、運営推進会議のメンバーとして、行政からの情報提供は勿論、時には家族や地区代表者からの質問等に応じていただいたり、介護保険制度等の解説講座も行っていただいている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束排除宣言と称し、それを各所に掲示して、職員に向けて啓発している。管理者は、身体拘束を行わないよう職員に周知しながら、その都度、職員と話し合い、より良い方法を探している。 | 法人として「身体拘束排除宣言」を掲げ、ケア現場から抽出された問題点に沿って、月1回のミーティングや日々の申し送り時に共有し、具体的な事例検討を行い、問題解決を図っている。帰宅願望者への対策として行っていた玄関の施錠についても、目標達成計画に取り上げて開錠に至っており、ボランティア組織や自主消防隊を通じて、利用者の無断外出時に備えた協力も働きかけている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | ホーム長が研修に参加し、虐待が行われないように注意を払っている。今後、職員にも積極的に研修に参加させたい。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | ホーム長が研修に参加し、学んでいる。苦情の前例はないが、必要であれば、関係機関(地域包括支援センター)等に相談等を行い、支援したい。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居の際には十分に説明やアセスメントを行い、双方が納得した上で決めている。退居に関しては、利用者や家族の心情に配慮しながら行っている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者の健康状態や生活状況を定期的に報告している。 | 意見箱を設置している他、家族が話し易い雰囲気づくりと、利用者とのコミュニケーションづくりを土台に、問題点をすくい上げるように努めており、出された意見は苦情処理報告書を作成して全職員で話し合い、解決策を講じている。また、毎月のお便りで、利用者の健康状態や受診状況等を報告し、家族との連携を図っている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 定期的に連絡会議を行い、各事業所の代表者が問題点や近況報告を話し合っている。 | ユニット毎の月1回のミーティングや日々の申し送り時に、迅速に職員の意見を吸い上げ、場合によっては、法人の連絡会議に上申することもある。ホームでは利用者や職員との信頼関係を重視し、ユニット間での職員交代以外は、ほぼ異動は行わないように配慮している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 不定期に昇給を行っているものの、十分とは言えず、今後は福利厚生充実や人事考課に取り組んでいきたい。資格取得者には特に配慮している。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 必要と思われる研修には積極的に参加させている。また、内部でのビデオ研修も行っている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 同地区の協議会が主催する研修等に、積極的に参加させている。グループワーク等を通じて、同業者との交流が図られている。 | | |
| Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | まずは本人の要望をしっかりと傾聴することが重要と考え、実践している。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 利用者はもとより、家族の要望もしっかりと傾聴することがアセスメントの第一歩と考え、実践している。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | その方のニーズを把握するように努め、あらゆる資源の活用を視野に入れて、入居対応を行っている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 利用者個々のできる事を把握し、楽しみながら、職員と共に手作業やレクリエーションを行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会時や場合によっては電話のやりとり等で、家族と意思疎通を図っており、できる限り家族の要望に応えるようにしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 馴染みの理容所や病院への付き添い介助等、できる限りその方の希望に沿うようにしている。 | 利用者や家族等からの情報を基に馴染みの関係を把握し、葉書への返信を支援したり、電話をかけたいという希望に沿って支援している。ホームでは、ボランティアヘルパーを利用して、週3回、2時間程の帰宅を長年継続している利用者や、通い慣れた美容院に家族が同行することで、外出の楽しみが継続されている利用者もいる。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者個々の性格や嗜好、趣味を把握するように努めている。孤立やトラブルを避けるため、食事席の変更等、臨機応変に対応している。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退居や退院の際には、サマリー等で退居先に情報提供している。また、退居してからも、その方の容体の確認等のやりとりを家族と行っている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 定期的カンファレンスをして意見交換を行い、より快適に暮らせるよう、定期的に検討している。 | 職員は日々笑顔で、心が通い合う会話を心がけており、時には方言を駆使する等、工夫しながら意思疎通を図り、利用者の思いの把握に努めている。また、利用者毎の申し送りノートに経過観察を記録し、カンファレンス時には全職員で共有しながら、介護計画とも連動して活用している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居担当者はアセスメントを十分に行い、予備知識として職員に周知している。また、入居後も定期的カンファレンスを行い、評価をしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 口頭や記載による申し送りにより、職員間で、利用者の心身状態の変化に注意しており、声がけにも気を配っている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 定期的にケアカンファレンスを行い、職員間で意見交換をして、より良いケアの方向性を模索している。 | 介護計画は利用者の意向や家族の希望を取り入れながら、日々記録している利用者毎の申し送りノートを基に、カンファレンスの場で全職員が意見交換をして作成し、具体的な目標を掲げている。また、4ヶ月毎にモニタリングを行い、見直しを行っている他、状況の変化に応じた見直しも随時行っている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 定期的に職員間でカンファレンスを行い、個々のケアの見直しを行っており、それを介護計画にも活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 家族の意向や認知症進行の予防も兼ねて、以前の住まいと一緒に物を取りに行く支援等を行い、幅広い支援を個別に行っている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の方によるボランティア組織の支援により、夏祭りの手伝いや周辺環境整備を通じて、利用者の生活を支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 協力病院に限らず、本人が馴染みの病院を受診できるようにしている。また、受診介助も行っている。 | これまでの受療状況を把握し、利用者毎に馴染みの病院への継続受診を支援している。認知症専門医や歯科、眼科を含め、家族の立ち会いが必要な場合には同行していただく他、定期受診は毎月のお便りで報告したり、特変時には随時電話で連絡をする等、家族との共有化を図っている。 | |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 記載や口頭による申し送りにより、職員間の情報共有に努めている。適時、看護師から支持を仰いでいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院等が生じた場合には、日々の健康状態等をできる限り情報提供している。また、適時、お見舞いに行って容体の確認等を行っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居契約時と同時に重度化の指針を説明し、書面にて合意をいただいている。医療の依存度が増してきた場合等、その都度、家族と話し合いを行っており、場合によっては主治医とも話し合いを行っている。 | 「健康状態に関する指針並びに重度化した場合に関わる指針」を提示・説明して、ホームの方針を明確にしている。常時医療行為が必要になった場合等、適切な病院や他施設への転居を勧める方向で支援を行う方針であるが、利用者の状態変化に応じて、終末期に対する確認書を取り交わしつつ、医師との連携により、これまでに2件の看取りを実践している。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 定期的に行われるAED及び心肺蘇生の研修には積極的に参加させている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 地域の方による自主消防隊を結成し、定期的に夜間を想定した消防訓練を行っている。 | 年2回、夜間想定での避難訓練を実施しており、過去には地域の自主消防隊の参加を得たこともある。また、消火器やスプリンクラー等は業者により定期的に点検している他、各ユニット毎に飲料水や食料、ストーブや防災用品を備え、緊急時の持ち出し袋も用意して管理している。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 認知症のレベルに関わらず、利用者の尊厳を大切にして声かけを行っている。 | 職員は日々、笑顔で利用者に接し、利用者の言葉に耳を傾け、一人ひとりの人格を尊重した対応に努めている。また、職員は外部研修を積極的に受講し、ミーティングや申し送りの場で問題点を振り返りながら、全職員で話し合い、利用者にとってより良い対応を心がけている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 職員は、自分で意思表示ができない利用者についても、日々の表情や行動を観察することで、その方の喜怒哀楽を読み取るようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 個別に柔軟に対応したいと考えるが、利用者の重度化に伴い、日課に沿った対応になりがちである。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 整容には気を配っており、特に、口の周りや整髪に気をつけている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者の有する能力に応じて役割を提供し、お手伝いをしていただいております。食事に限らず、リネン等の作業を行っていただいております。 | 菜園で収穫した季節の野菜を中心に、献立の評価を検食簿に記録して検証しつつ、利用者の嗜好や健康状態に応じた調理法で提供している。また、野菜の下拵えやおしぼりたたみ等、できる範囲で準備に加わる利用者もおり、検食担当の職員以外もテーブルに着き、楽しい会話が弾む中、食事のサポートを行っている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量を把握し、適時、主治医に上申して、高カロリー栄養食等を捕食している。また、水分摂取量の目標を掲げ、励行している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、口腔内のケアを確実に実行しており、必要に応じて、往診時に歯科医の助言を仰いでいる。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている | できる限り自立支援を促しつつ、トイレ誘導等を行っている。また、定期的に評価を行っている。 | 一日の排泄記録を基に、個々の排泄パターンに応じて事前誘導を行っており、特に夜間は、利用者の覚醒を確認して自立歩行を促すことで、転倒防止を心がけている。また、退院後はオムツ使用から少しづつ自立に向かうよう、介護計画の目標に掲げて、評価を重ねながら自立支援を目指して取り組み、成果も上がっている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | できる限り、メニューを作る際にはバランスの良い献立作りに取り組んでいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている | 利用者の健康状態に応じた入浴の仕方で行っているが、入浴は週2回、定期である。 | ホームには普通浴とリフト浴に対応できる設備があり、入浴の順番やお湯加減等、できる範囲で利用者の希望を取り入れながら、週2回の入浴支援を行っている。また、利用者に季節を感じてもらえるよう、菖蒲湯やゆず湯等も取り入れている他、入浴に対する拒否反応がある時でも、無理に勧めることなく、柔軟な対応を行っている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 個々の状態に合わせて、日中の臥床、離床時間を決め、日中の疲労感に配慮しつつ、夜間の安眠を図るようにしている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 利用者個々の内服薬の情報を現病歴と共に個人記録に記載し、一目でわかるようにしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | ケアカンファレンスや日々の気づきをノートに記載して、職員間で利用者の状態を把握し、日々のケアに役立てている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 定期的に、その季節に応じたドライブ等の外出機会を設けている。また、家族の参加も募っている。 | 日常的に、日向ぼっこを兼ねてホームの周辺を散歩したり、山菜取りや菜園の様子を見に出かけている他、2ヶ月毎に、花見や紅葉狩り、ドライブ、外食等の外出も計画している。また、その都度、案内状により家族へ参加協力を呼びかけている他、利用者の体調に応じて、無理のない支援を行っており、地域の小学校との交流の延長として、運動会の参加応援や文化祭見物等の外出の機会も設けている。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 利用者の有する能力に応じて、柔軟に対応している。自己管理される場合には、紛失や盗難防止の観点から、管理者が定期的に所在確認をしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 希望があれば、電話の支援や手紙の代筆をしている。また、書籍の購入の支援も行っている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室にはできる限り馴染みの物を持ち込んでいただいている。廊下等、動線上には障害となる物は置かないようにしている。 | 食堂ホールは天窓からの日差しで明るく、昔の暮らしを思い出させるような畳敷きの小上がりもある。ホームでは防災対策として、ホール入口に利用者全員のポートレートを掲示している他、居室には表札代わりに大きな写真をかけて、避難時の確認に役立っている。また、エアコンの調整により温・湿度を管理している他、ホームの所々に季節の花を活ける等、利用者が季節を感じることができるようになっている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ホール内には利用者がテレビ鑑賞等をするスペースがあり、そこで各々が寛いでいる。必要に応じて、テーブルの配置転換を行っている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 安全を考慮しつつ、できる限り、利用者の馴染みの物を持ち込んでいただけるようにしている。 | 居室には馴染みの寝具や衣類等を持ち込み、家族の写真や習字等の作品を掲示している他、位牌を置いたり、好きな音楽を自分でかけて楽しんでいる利用者もいる。また、転倒防止のためにベットを撤去し、布団を敷く等、柔軟な対応を行っている他、居室担当者により衣類や持ち物が整理整頓され、安全で居心地の良い居室づくりが行われている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 動線上には障害となる物は置かないようにしている。 | | |